

私の考え方

武志(大圓)

太祖道と下化衆生

田黒

一

太祖様は誓願一筋に生きられたお方であり、また、夢を見、夢に生き、夢を実現されたお方であります。そして、人材の育成に力を致されると共に、まことに衆生縁の厚いお方であります。

二

私は、二十五年前總持寺に安居して、太祖様のケタはずれの偉大さに深い感銘を覚え、太祖様に導かれて自分の一生を切り開こうと決意しました。

当時の私には、各宗派が分立して、大同団結するこ

とのない日本の仏教界は異常なもののように思えてなりませんでした。そこで私は、宗祖を通して釈尊に還ることを私の宗教活動の到達目標として設定し、その第一歩として、両本山安居ののち、仏舎利奉持日本一周托鉢行脚をし、続いてインド仏蹟巡拝の旅にのぼり、帰途タイ国に立ち寄り、一年間上座部仏教を実地に学びました。また、四年前に新築した本堂を「釈迦殿」と命名したのも、宗祖を通して釈尊に還るという私の信念に基づくものであります。

さらに私は、縁あってアメリカに渡り、白人と共に

参禪弁道する機会に恵まれました。広く世界に学ばう
というのが私の夢であり、夢の実現に私は努力を続け
てまいりました。アメリカから帰つて、新寺を建立す
る夢が案外早く訪れたことは私にとってまことに幸い
なことでした。新寺建立の機会に恵まれた私は、「檀
家を敬うこと仏のごとくすべし」という太祖様の教え
を肝に銘じ、また永平寺が禅苑としての規模が整うま
での十一年間にわたる太祖様の御苦労を偲び、寺院經
営に微力を捧げ、開創十五年にして前記釈迦殿を建立
することができました。

三

いまや人類は宇宙時代に入り、時間的にも空間的に
も距離は著しく短縮され、世界はあたかも一国の觀を
呈しておりますが、反面、人類はかつてない不安と絶
望の危機に見舞われております。これは明らかに現代
社会の悲劇であり、今日ほど仏陀釈尊の教法宣布を必
要とするときはないのであります。

ところが、わが国は世界最大の仏教国でありながら、

仏教界は遺憾ながら、世界の大勢に即応して教化の実
を擧げる態勢に負けております。ここに私は、海外生
活を通じて、広く世界に活眼を開く人材育成の重要性
を痛感するのであります。そこで自坊開創十五周年を
期し、報恩行の一端として、海外に留学僧を派遣し、
人材の育成をはかり、もつて仏教を振興し、世界の平
和、人類の進運に寄与することをねがい、海外留学僧
派遣育英会を設立しました。

そして昨年は、宗派をこえて、黄檗宗と浄土宗から、
二人の青年僧をタイ国ワットパグナムに派遣し、今年
は、浄土宗の宗侶一名をインドに、曹洞宗から一名を
アメリカに派遣しました。

今後十年二十年と優秀な人材に海外留学の機会を与
えることができたら、仏教の振興、期して待つべきも
のがあると確信し、努力精進する所存であります。こ
こに太祖様の大きな下化衆生の道が開けることがあり
ましよう。（昭和六十一年六月九日、関東総和会大会

—鴨川にて—において発表）

